

## #05\_慣れてきたかも…この感じ

「んちゅつ…ふう、はあ、んつ…ちゅう、ちゅう♡ ちゅぷつ…んんつ♡」

「ちゅりりゅ…れるれる、れろちゅつ♡ はあ、ふう♡ ん～ちゅつ♡」

「れる、れる、はあ、はあ、れろれろ、れるむちゅつ♡ んう♡ ちゅうう♡」

「んつ、ぷふう、はあ、はあ…はあ…♡」

「んつ…なんか、あんたとこうしてキスするのも、日課になってきたね…」

「別に…嬉しいとか、そういうのじゃないけど…」

「でも、嫌じゃない…」

「あんたは、多分…他のヤツとは違う気が…するし」

「ん、なんでもない…」

「それよりも、キス…まだ終わりじゃないでしょ？」

「もっと、してよ」

「ふう、ふう…♡」

「んつ…ちゅう♡ ちゅう、ちゅう…んふ♡ ちゅう…はあ、はあ…んつ！ んちゅう…」

「ちゅぶ、ちゅりゅ…んああ♡ れるれる、れろるちゅつ、れるるれ…んんう♡」

「れろれろ、れる、れる…れるちゅう～♡ んう…♡ れるれるれるう～♡」

「ぷはあ…♡ はあ、はあ…ごめん」

「今のは…その、嫌な気持ち、なくそうって思ったキスだったから…」

「その、なんていうか…真摯じやなかったかも…」

「な、何？ べ、別にいいでしょ！」

「本当に…その、あんたは、その…よくしてくれるから…」

「ちゃんとそれには応えないって、思ったの！ それだけ！」

「んつ…んちゅう♡ ちゅつ♡ ちゅう…♡ はあ、んう♡ んちゅ、ぶちゅう♡」

「んう、れるれる、むちゅつ…はあ、ふう、もっと、舌…絡ませて♡ れるれるれる…れろれる…んつ♡」

「んう♡ れるれる、気持ちいい♡ れるれる、れろれろ、れるれる…！」

「んう、れるれる、れろろお…♡ んう、ちゅうううう♡」

「ふう、ふう…♡ そういうえば…なんだけどさ…」  
「また、セックスしたいとか、あんた思わないの？」  
「私…そんな気持ちよくない？ それともしたくない理由でもあるの？」

「んっ…まあ、大体察しはついてるんだけどさ…」  
「私が、辛そうにしてるの…嫌なんじゃない？」  
「まあ、昔は色々あったからさ…あんまいい思い出とかもないし？」

「でも…」

「んっ…ちゅう♡」  
「ふう、ふう…♡ キスと同じでさ…あんたなら、私…全然嫌じゃない」

「というか…んっ…」  
「そろそろ気づけばいいのに…」

「んっ…！ ふう…」

「はあ、ふう…あんたが教えてくれるって言ってた愛って、その程度なんだ～」  
「私が辛そうにしてるのもさ…あんたの愛とかってので、なんとかしてくれるもんじゃないの？」  
「あーあー、期待してたのになー」

「ふう、ふう…」  
「んっ…教えてよ。あんたの愛」  
「それで、全部…嫌な思い出とか、全部全部…上書いてよ…」  
「お願い…」

「んっ…ちゅつ、ちゅう…♡ はあ、んんっ！ んちゅう、ちゅう…」  
「はあ、ふう…♡ んっ…♡」

「んっ…待って…！」  
「服は…自分で、脱ぐから…ふう、ふう…あと上、脱ぎたくない」

「ん、むしろ…あんたの、脱がせてあげる…」

「ふう、んちゅつ♡ ちゅう、ちゅう♡ はあ、ふう…んちゅ、れるれるれろ…」

「れるちゅう、んちゅう、ふあつ、んう、ちゅう♡ ふうふう…」

「んつ、ちゅう～ちゅうう～♡」

「ぷふう、はあ…はあ、んつ…ふう…」

「んつ…はあ、ふう…待ってね、今、脱ぐから」

「んつ…はあ、ふう♡」

「ん、こんだけ濡れてるんだよ…キス、だけで♡」

「ほら、早く…来て？ あんたの愛、教えて？」

「んつ…♡」

「はあ、ふう…ん、あんたの身体…こうしてギューってすると、安心する…♡」

「んう、なんでだろうね…？ こんな事、ほんと、なかつたのに…」

「はあ、はあ…そろそろ、挿れる？ お腹に固いの、当たってるし」

「ん…じゃあ、今日はさ…この体勢のまま、してよ」

「その…抱きしめられてたら、安心して…

怖いのとか、嫌な感じのも、ないような気がするっていうか…」

「あんたを近くで、感じたいの…だから、ね？」

「ん…ありがと」

「ふう、はあ…ふう…」

「んう…つ♡ はあ、はあ…ん、入って…来たあ…♡」

「はふう、はっ、はあ、ふつ…んんつ♡」

「んつ…？ 何見てんの？」

「私は、見ての通り…んつ、なんだけど…」

「痛いとか、そういうのも…ないし。だから、んつ…♡ 安心して？」

「でもお…」

「こうして、ギューってしながらしたら…キスとかも、して、動いてもらつたら…」

「もっと、良いかも？」

「ふう、ふう…」

「ん…ちゅつ♡ んふつ、ちゅう、はあ、はあ…んつ！ んちゅつ！ んつ！」

「んう♡ ちゅう、ちゅぶ、んちゅう、れるれる…はあ、ふう、んつ！ ちゅつ、ちゅつ…」

「ん…ちゅう♡ やっぱり…気持ち…いい♡」

「はあ、んつ！ ああ…んつ！ んつ！ んちゅう、ちゅう♡ ちゅううう♡ んあつ！」

「んつ、んちゅつ♡ んんつ、ちゅう、れるれる♡ はあ、んあつ♡

はあ、ふう…んちゅう、れるれる、はあ…んう♡」

「はあ、はあ…んつ、あつ…そこつ♡ いい、気持ち、いい♡ ふう、ふう…んんつ♡」

「はあ、ちゅつ、ちゅうう♡ んつ、んつ…♡ はあ、んう～つ♡」

「ねえ…んう、あんたはさ…んう、んつ…どう？ なの？」

「私との…セックス、んつ、はあ、あつ…気持ちいい？」

「んんつ、はあ、はあ、ふつ…んつ、んう…はあ、はあ♡」

「そ…♡ なら、んつ♡ 良かったつ…♡」

「んう…私だけだと…はあ、はあ…申し訳…ないからつ…んんつ！ ねえ♡」

「2人で、気持ちよく…なれてるならつ…あつ！ ああつ！ 良かったあ♡」

「んつ！ んあつ！ また、違うとこ…あたってえ♡ ふうう♡ んんつ♡」

「ふう、んつ…んつ、どうしたの？ そんな、力強く…抱きしめて…さあ♡」

「変なの…♡ はあ、ふう…ああつ、んつ♡ んう、んん♡」

「んつ、それよりもさつ…んんつ♡ ふう、ふう…」

「キス、止まってるぞ♡ はあ、はあ…」

「んつ…♡ んちゅつ♡ んう♡ んつ、ああ…♡ はあ、ちゅう♡ んちゅう、ちゅうう♡」

「ふう、ふう…んんつ♡ ちゅう、ちゅううう♡ ちゅぱつ♡ んちゅう♡ ちゅう♡」

「れるれる、れろちゅう♡ えへ♡ れるれる、れろれろ…んんつ♡ れるれるれろ～♡」

「いい…♡ キス…んちゅう♡ れるれる…舌、絡ませるのも…♡ いい…♡」

「んんう、れるれる、れろむちゅううう♡ れろ、れろ、れるう、れるう♡」

「ふうう♡ はあ、んつ♡ はあ、はあ…♡ れるれる、れろれろ…♡」

「ふう♡ もう、んちゅう♡ ちゅう♡ れるれる、れろちゅう♡」

「気持ちいいの…♡ はあ、はあ…んつ♡ …んつ♡ 上がって、来ちゃう♡」

「ふうう…んう、はあ、はあ♡ あんたも…そろそろ…？ なのかなあ♡」

「んつ、ちゅう♡ れるれろ…ぶちゅう♡ ふうつ…だって…♡」

「そんな、気が…するから…んんつ！ んちゅうぶつ♡ れるれるれる…♡」

「んんつ♡ ぶふう♡」

「はあ、はあ…♡ んつ♡ んんう…♡」

「また、一緒に…イコ？ 前みたいに…さ♡」

「あれ…すっごく良かったから…また、一緒に…イキたいの…♡」

「もう、ふう、んつ♡ 辛いのとかも全然、無いから♡ 強くしても…気持ちいいからあ…♡」

「だから、お願ひ？ 最後は♡ んつ…あんたが一番気持ちよい形でえ…♡」

「私も気持ちよくして…んんつ♡」

「愛ってやつを…おっ…！ んつ！ はあ、はあ…私に…教えてえ♡」

「んつ…ちゅううう♡」

「ちゅう♡ はあ、はあ…お願ひ♡」

「んつ！ んんつ！ ああつ！ きたつ…きちゃあ…♡」

「はあ、はあ、んんつ♡ んあつ！ んつ！ あんつ！ ああつ！ あつ！ ああつ！」

「はあ、はあ…あつ！ んつ！ んんつ！ ああ、あつ！」

「ふうつ♡ ふう一つ♡ んつ！ あう、あつ…んつ！ はあ、ふう一つ！」

「んつ…♡ んんつ！ んちゅう、れるれる、れろちゅう♡ ふう♡ ふう♡ れるぶちゅつ♡」

「んう、れるれる…♡ んつ！ そろそろ、イク…♡」

「イク、イク♡ んんつ！ れるれる、れろむちゅう♡ ぶはあ…♡」

「ふう、ふ一つ♡ んつ！ あんたも…一緒に…イコつ♡ んつ！ イコ、イコう？」

「んちゅう…れるれる、あふあ…イク、イク…れるれる…イックうううう♡」

「んんつ♡ んんう♡ んつ！ んつ！ んんんんう～～～♡」

「んう、れる、れる…んう♡ んう♡ れるれる…んつ♡ ふううう♡」

「ぷはあ…はあ♡ はあ♡ ふうう…♡」

「はあ…♡ んつ…今日も、たくさん…出すじゃん♡」

「はあ、はあ…んつ…はあ、はあ…セックスって、こんな…幸せになるもんだったんだね…」

「ん、結構、いいかも…♡」

「でも…いいのかな…？」

「…別に、なんでもない」